

## 委員からの主なご意見

- ・ 今回の分科会では、特に分娩機能に関し、これまでの検討会における指摘事項を踏まえた論点を示した上で、母子の安全・安心を第一に、どのような体制をとることができるか、意見交換を行った。
- ・ 各論点について、委員それぞれの立場から様々な専門的意見が出たため、それらを基に、今後、必要な調査等を行い、県で取りまとめ案を作成の上、次回開催（時期未定）の分科会で議論する。

### 【産科医療】

※（行）：行政、（医）：医療従事者

#### 1. 安全な分娩の実施について

##### ①医療従事者の確保（症例数の限られた病院で、医療従事者を確保できるか）

（医）求められる医療レベルに依存するが、予測できない緊急帝王切開に

備えて24時間体制で対応するとなると、相当数が必要

（医）若手医師だけでなく、緊急時にスタッフを統括し対応することができる医師も必要

（医）年間100件未満の分娩となると、派遣される医師としてもすることがない時間が多くなることから、無理に派遣すれば、辞めてしまう可能性もある。待遇を上げても派遣できる医師数は限られる。

（医）奥能登の分娩が七尾で集約されている現状について、七尾での分娩体制も何とかやりくりして対応できている状況であり、新病院ができるまでの間、この体制を継続していくことが重要。

##### ②医療安全（七尾・金沢での出産＋事前宿泊の支援で、安全が確保できるか等）

（医）昔は少ない医療従事者でも分娩を行っていたと言われるが、医療リスクゼロが求められる中、時代に逆行したことをすることはできない。

（医）セミオープンシステム（県の提案）については、良い提案だと思う。

##### ③費用負担（医療従事者を確保できた場合に想定される県・4市町の負担等）

（行）費用負担については、ある程度はやむを得ないと思う。

## 2. 分娩の実施に向けた方策

### ①輪島病院における分娩停止（分娩再開の考え）

- (医) 一定の常勤医が確保できれば、輪島病院でローリスク分娩を行い、緊急時に七尾へ搬送する体制での分娩は可能であるが、現状では難しい。
- (医) 赤ちゃん協議会の結論(分娩には複数の産科医が必要)を踏まえると、分娩再開は難しい。

### ②その他検討会や地元住民等から出ている意見(ローリスク分娩の可否等)

- (行) 奥能登で分娩ができないと性急に結論付けるのはどうか。新病院の建設を進めていく中で、分娩がどうあるべきか議論してもらいたい。
- (行) 分娩もできないということになると、ますます若い女性が住みつかなくなり、さらに地域が衰退していくので、継続して検討してほしい。
- (医) 医療の集約化によって人口減少するのではなく、人口減少の結果、医療の集約化が起きている。
- (医) 安全基準をしっかりと作り、ローリスク分娩を対象にすることで少ない人員配置でできる可能性があると思う。
- (医) 県の提案について、出産時のみ別の地域となるだけで、それ以外の時間は地元で安心して過ごすことができると思うが、妊婦へアンケート調査等で意向を把握してはどうか。
- (医) 七尾で出産した奥能登の妊婦からは、特段不満の声は聞いていない。もちろん、分娩施設が近くにあることに越したことはないが、妊婦が安心だと思えることが重要で、行政側も安心だということを書いていかなければならない。
- (行) 本音では、住民も地元で産みたいと思っていると思う。家族と離れて事前宿泊することは難しいという声も聞いている。
- (医) 地元の気持ちはよく分かるが、これまで医師の少人数による分娩にはリスクがあることをしっかり伝えてこなかったように思う。状況をしっかりと説明できれば意識も変わってくるのではないかと。

### 【小児医療】

- (医) 奥能登にいる子どもたちのため、引き続き小児科医を派遣することで、安全・安心な子育て環境の整備に協力していきたい。